



2024年3月期第2四半期決算説明資料



2023年10月26日
メタウォーター株式会社

<セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業（略語：PE事業）：国内EPC事業、海外事業
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業（略語：SS事業）：国内O&M事業、国内PPP事業
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理（保守・点検）、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction：設計・調達・建設
O&M	Operation and Maintenance：運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership（公民連携）：公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative：公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate：公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

I 2024年3月期第2四半期決算ハイライトおよび
2024年3月期通期連結業績予想について

II 2024年3月期第2四半期決算概要

I 2024年3月期第2四半期決算ハイライトおよび 2024年3月期通期連結業績予想について

II 2024年3月期第2四半期決算概要

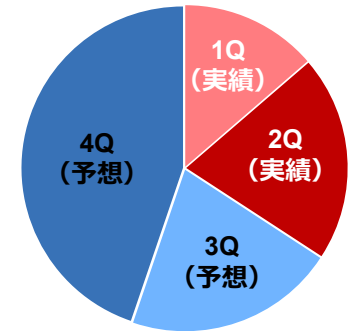
'24/3期1-2Q 決算ハイライト（連結）

■ 受注高

海外事業、O&M事業、PPP事業が堅調に推移し前期実績を上回り、受注残高は、前期末実績を大幅に上回った。

（参考）受注残高：'23/3期2Q末 2,246億円 ⇒ '24/3期2Q末 2,636億円（+390億円）

'24/3期 四半期別売上構成



■ 売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1-2Qの業績は低い水準となる傾向がある。

売上高は、EPC、海外、O&M、PPPの各事業が好調に推移し前期を上回った。

営業利益は、O&M、PPP事業が堅調に推移し前期を上回った。

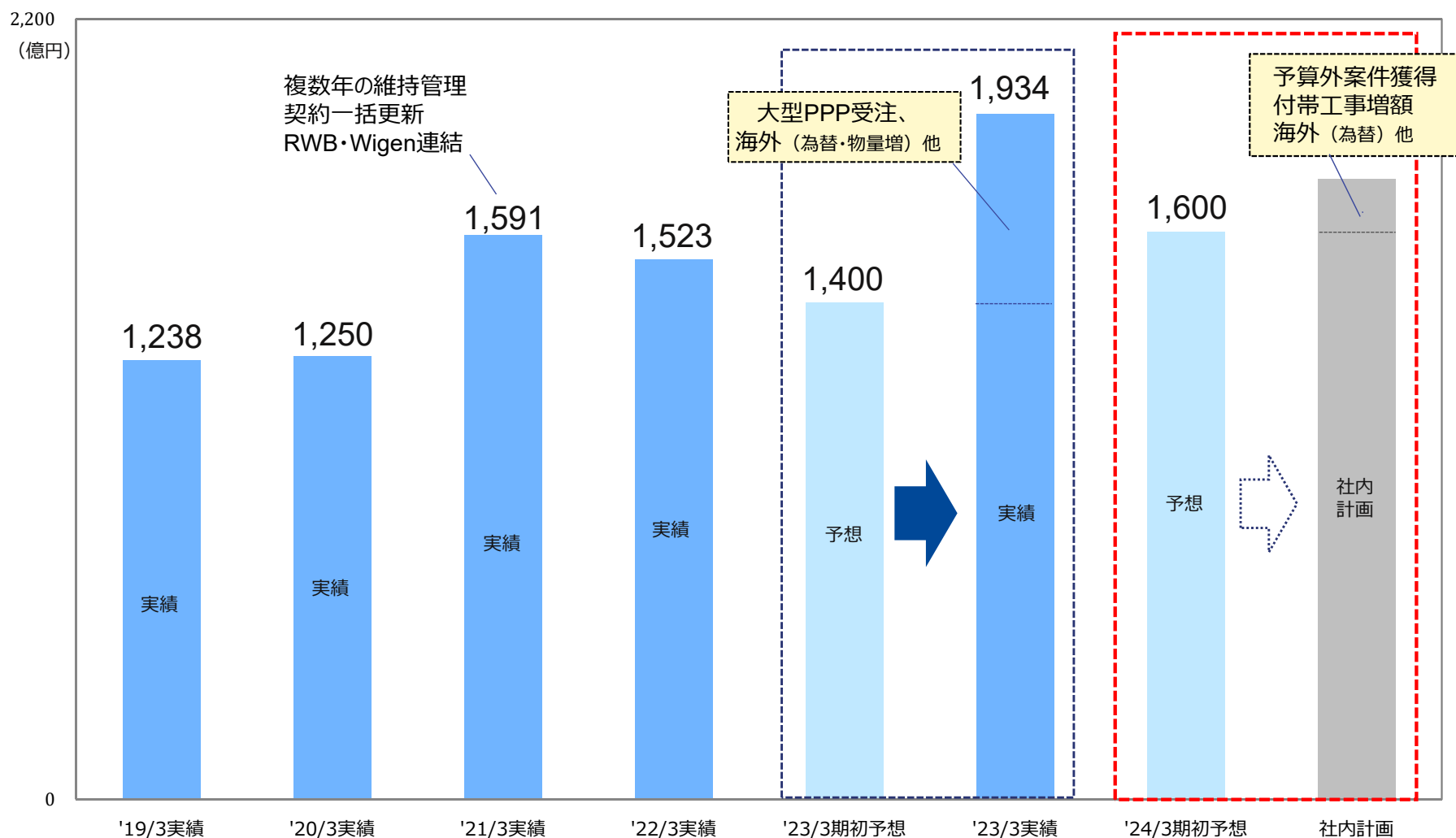
経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、為替差益の減少影響（4億円）などにより、前期を下回った。

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	第2四半期末 配当金（円）
'24/3期 1-2Q実績	879 前期比：+26 +3.1%	530 前期比：+63 +13.4%	-28 前期比：+2	-23 前期比：▲4	-22 前期比：▲6	22
'23/3期 1-2Q実績	853	467	-30	-19	-16	20

※10百万円単位を四捨五入（以降の実績値も同様）

受注高推移 – '23/3期予想と実績の対比と'24/3期計画

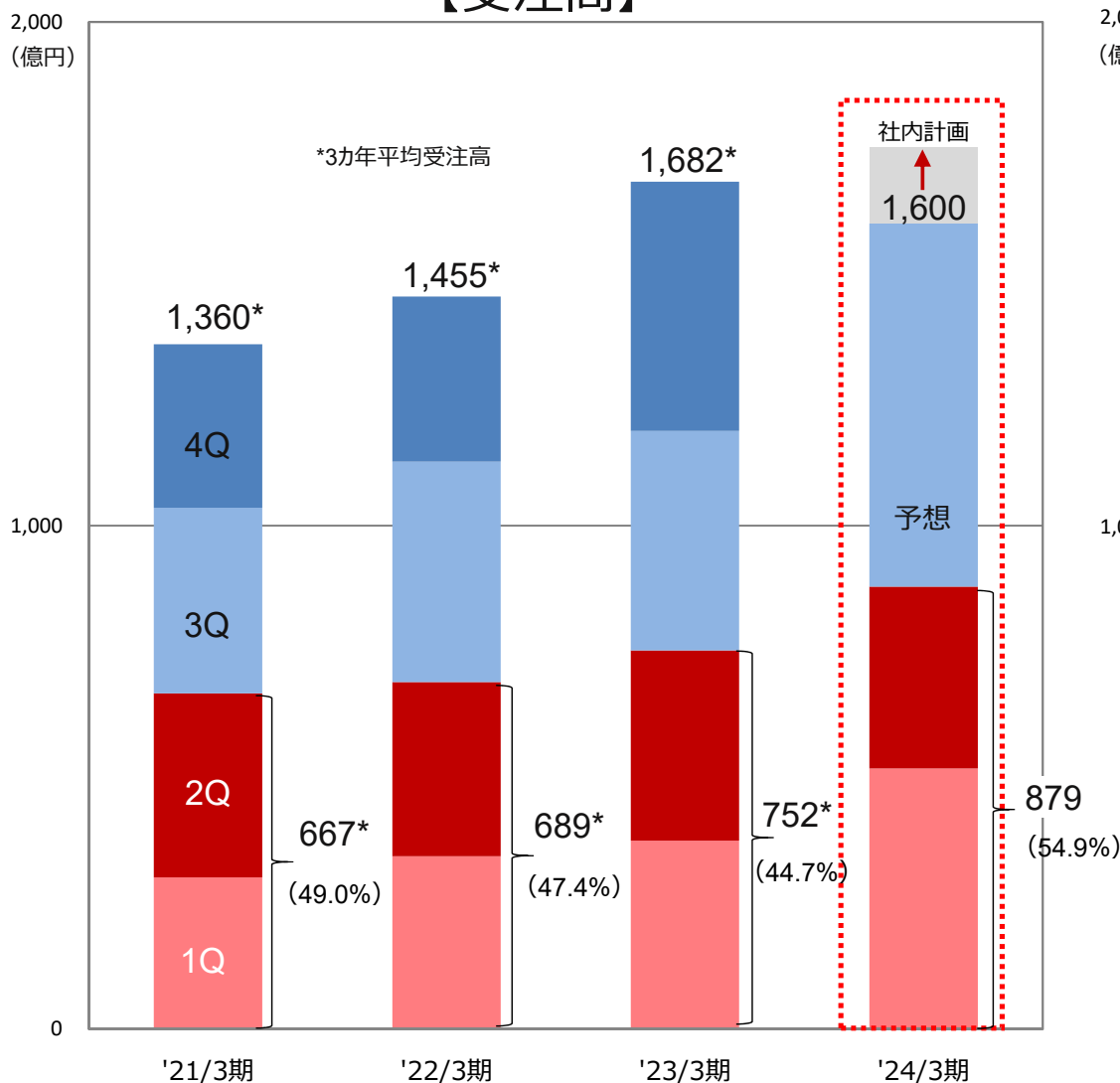
案件構成の違いにより各年度の受注高は大きく変動。
 近年、案件の大型化、付帯工事増など、期初予想を上回る傾向。
 当期も予算外案件の獲得など、受注高の増額に取り組む。



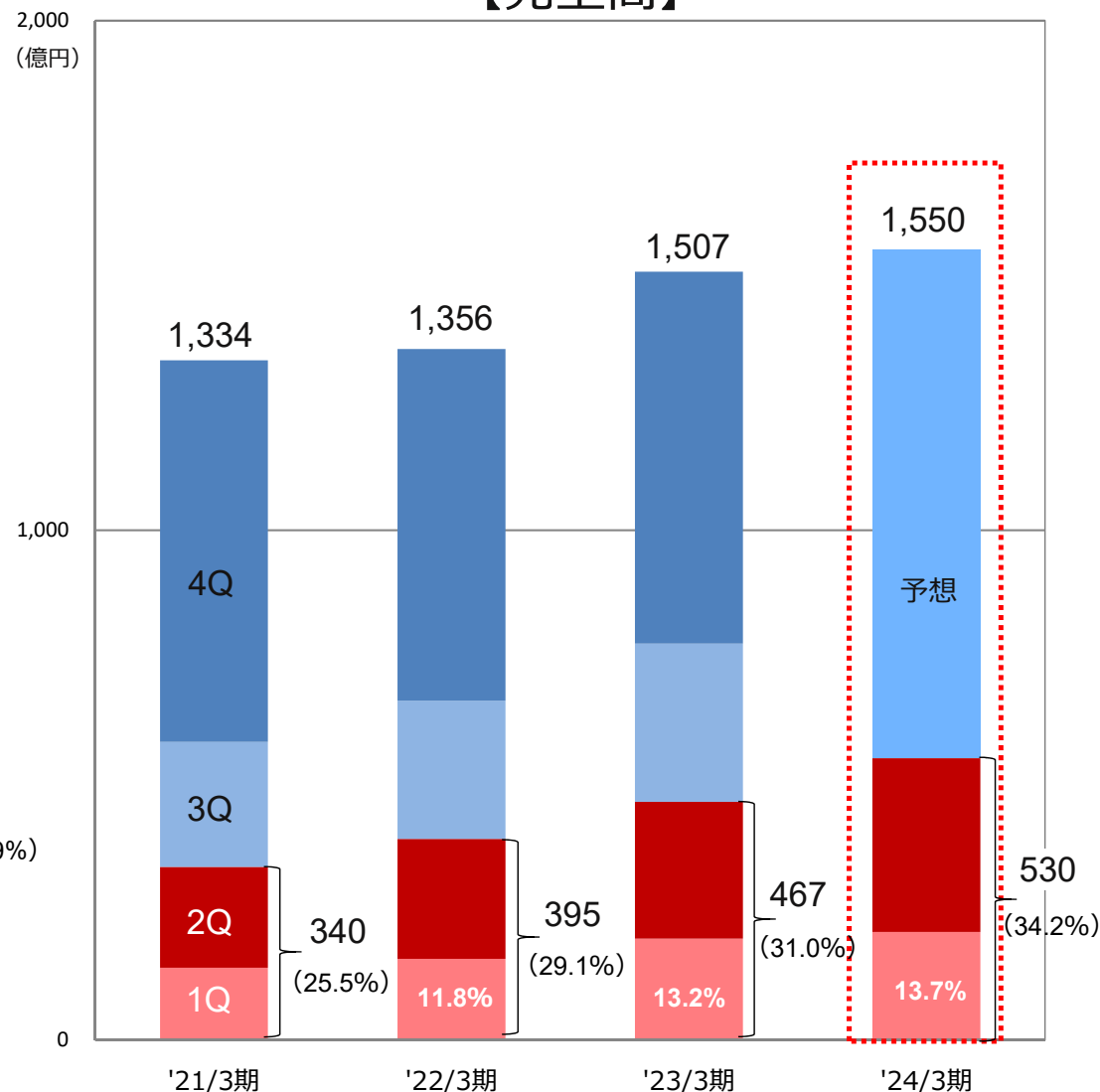
'24/3期1-2Q 受注高・売上高推移（連結）

当1-2Qの受注高、売上高は、ともに例年を上回る水準で推移。3カ年平均の受注高は、着実に増加。

【受注高】



【売上高】

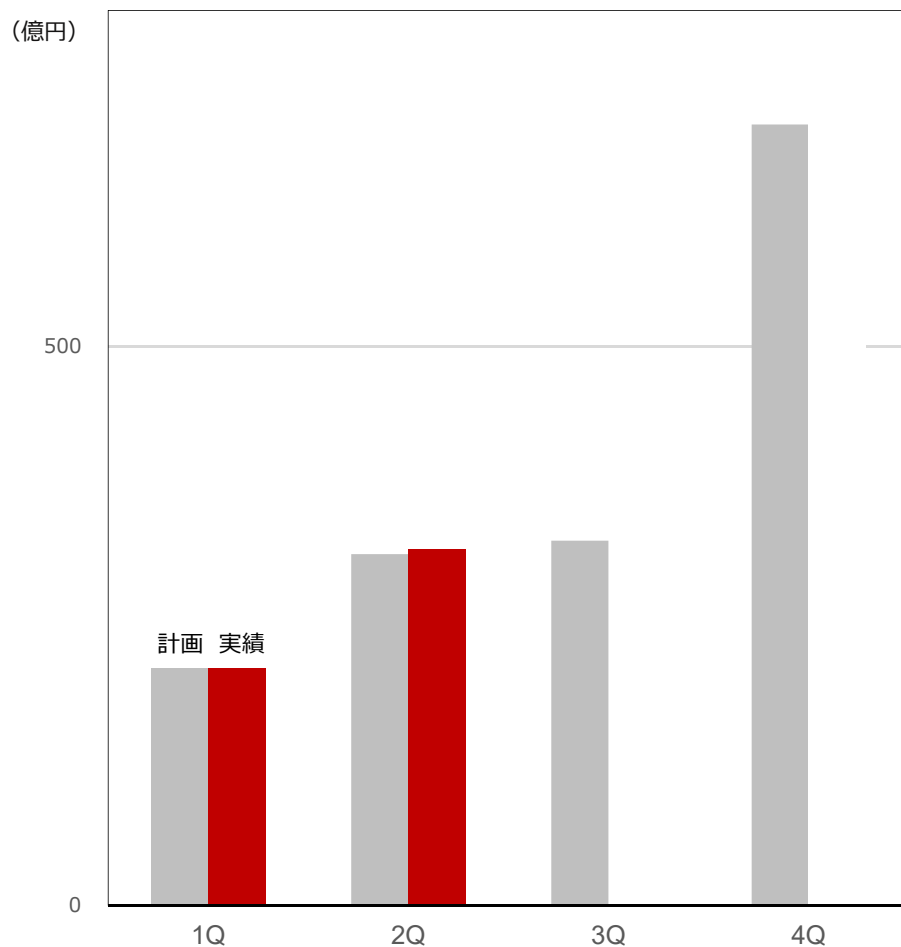


※'23/3期 PPP大型案件「大阪市汚泥処理施設整備運営事業」を受注

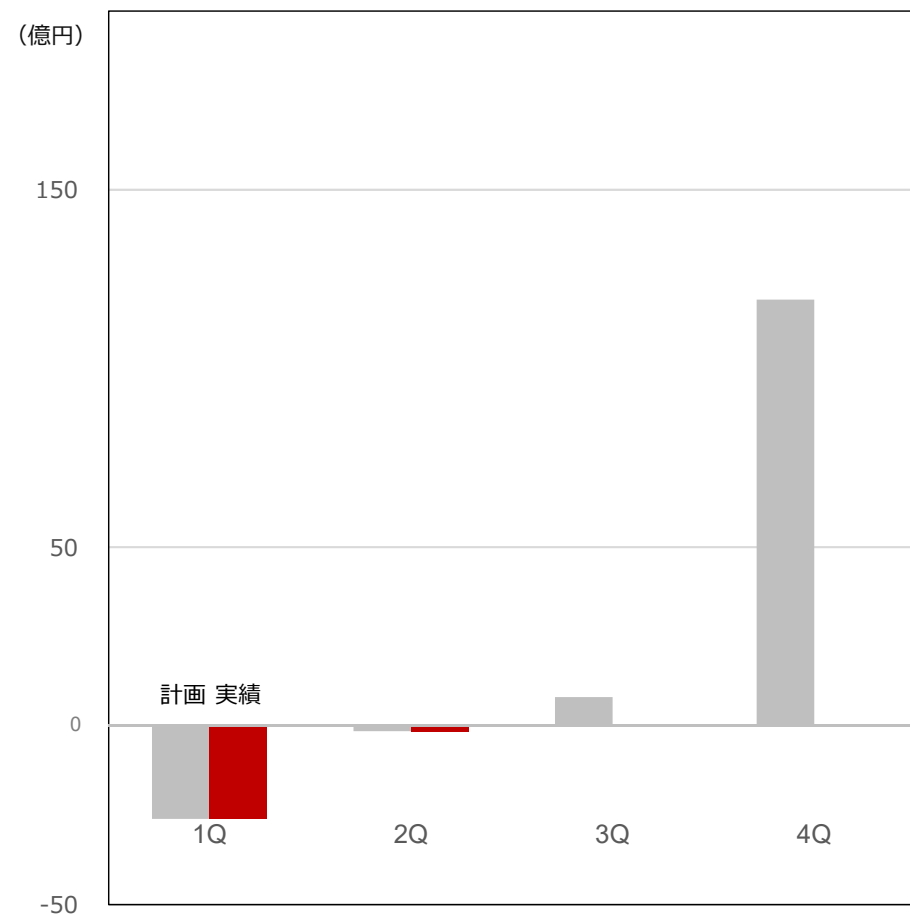
売上高・営業利益1-2Q実績とQ別計画（連結）

1、2Qの売上高、営業利益は、ほぼ**計画通り**に進捗しており**問題無し**。

【売上高】



【営業利益】



事業活動

- * 荒川水循環センター新2号汚泥焼却炉 火入れ式典を開催
～多層燃焼流動炉と廃熱発電設備を組み合わせた次世代型汚泥処理設備が完成～（8月）

研究開発

- * 「省電力送風装置(流動タービン)を用いた下水汚泥焼却設備」が
一般社団法人日本産業機械工業会 第49回優秀環境装置表彰「日本産業機械工業会会長賞」
を受賞（7月） ※詳細はP10

その他

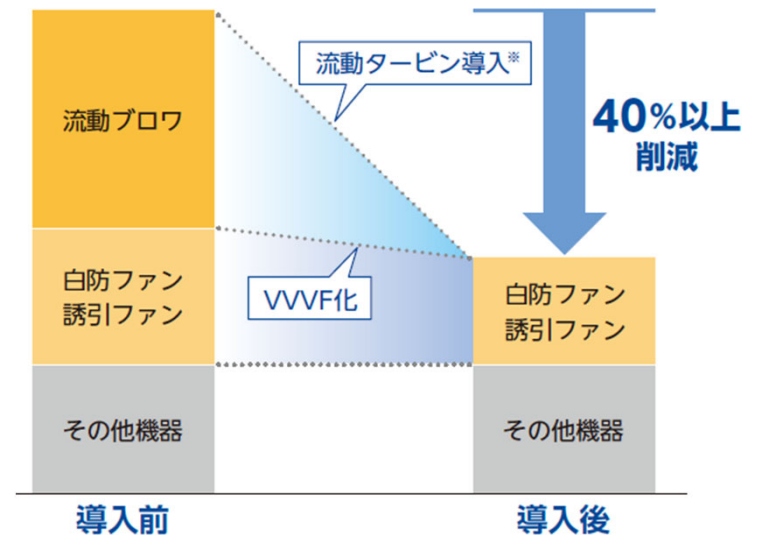
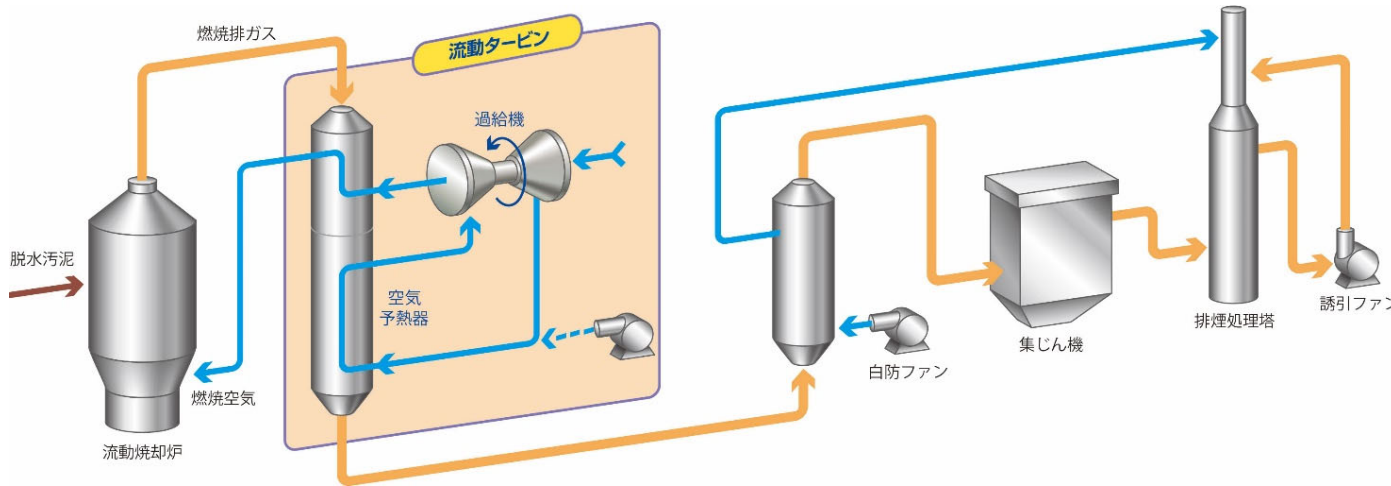
- * 経済広報センター主催「教員の民間企業研修」を実施（8月）
- * 「メタウォーターレポート2023」を発行（8月）

(参考)

- * ブルーボンドの発行（10月26日 東証開示） ※詳細はP11

■ 下水汚泥焼却設備のコア技術「省電力送風装置(流動タービン)」

- ・ 流動ブロワに替わり、排ガスの熱エネルギーで過給機を回転させ、焼却炉へ燃烧空気を供給する技術。
- ・ 流動焼却炉の安全性をそのままに、消費電力量および電力由来CO₂排出量を約40%削減。
- ・ 炉・排ガスラインは、従来同様の負圧で従来同等の安全・安心・安定を実現するとともに、過給機と空気予熱器以外は既設設備の利用が可能。



*流動タービンによる省電力効果は、導入前の流動ブロワ消費電力や処理規模、汚泥性状などによります。

ブルーボンドの発行

水供給や水の衛生など「持続可能な水処理事業」に関連する事業に資金用途を限定したSDGs債（ESG債）「ブルーボンド（第1回無担保社債）」を国内市場において公募形式にて発行予定。

当該資金調達は、当社グループのサステナビリティに関する基本方針に合致するとともに、調達資金を生かし重要課題*（マテリアリティ）の解決を促し、社会のサステナビリティに貢献。

調達資金は、水処理事業に関するコンセッション事業、国内外水処理事業者への投融資などに充当。

*6つの重要課題（マテリアリティ）：「水環境」、「循環型社会」、「温室効果ガス排出削減」、「地域社会」、「人財」、「ガバナンス」

ブルーボンドの概要

発行年限	5年（予定）
発行額	100億円（予定）
発行時期	2023年12月以降
主幹事証券会社	みずほ証券株式会社（事務）ほか
ストラクチャリング・エージェント	みずほ証券株式会社
資金用途	持続可能な水処理事業（コンセッション事業、投資・融資）

'24/3期通期連結業績予想

■ '24/3期通期連結業績予想については変更なし。

受注高

- ・足元では、海外事業、O&M事業、PPP事業が堅調に推移。
 予算外案件の獲得、付帯工事による増額などにより、引き続き受注高の増額に努める。

売上高・利益

- ・引き続き、他社工事（土建）遅れによる工期延長、必要部材の長納期化などを引き続き注視するとともに、設計前倒しによる必要部材・部品の早期手配、一括購入による在庫確保、工程管理の効率化、経費削減などに取り組む。

'24/3期通期連結業績予想

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)	年間配当 (円)	
							第2四半期末	期末
'24/3期 通期予想 (4/26付)	1,600 前期比：▲334 ▲17.3%	1,550 前期比：+43 +2.8%	100 前期比：+13 +15.1%	95 前期比：+4 +4.8%	64 前期比：+1 +2.4%	146.74	22	22
	—	—	利益率：6.5%	利益率：6.1%	利益率：4.1%			
'23/3期 通期実績	1,934	1,507	87	91	63	143.48	20	22
	—	—	利益率：5.8%	利益率：6.0%	利益率：4.2%			

I 2024年3月期第2四半期決算ハイライトおよび
2024年3月期通期連結業績予想について

II 2024年3月期第2四半期決算概要

Ⅱ 2024年3月期第2四半期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 セグメント別概況
- 3 連結貸借対照表
- 4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書

(億円)

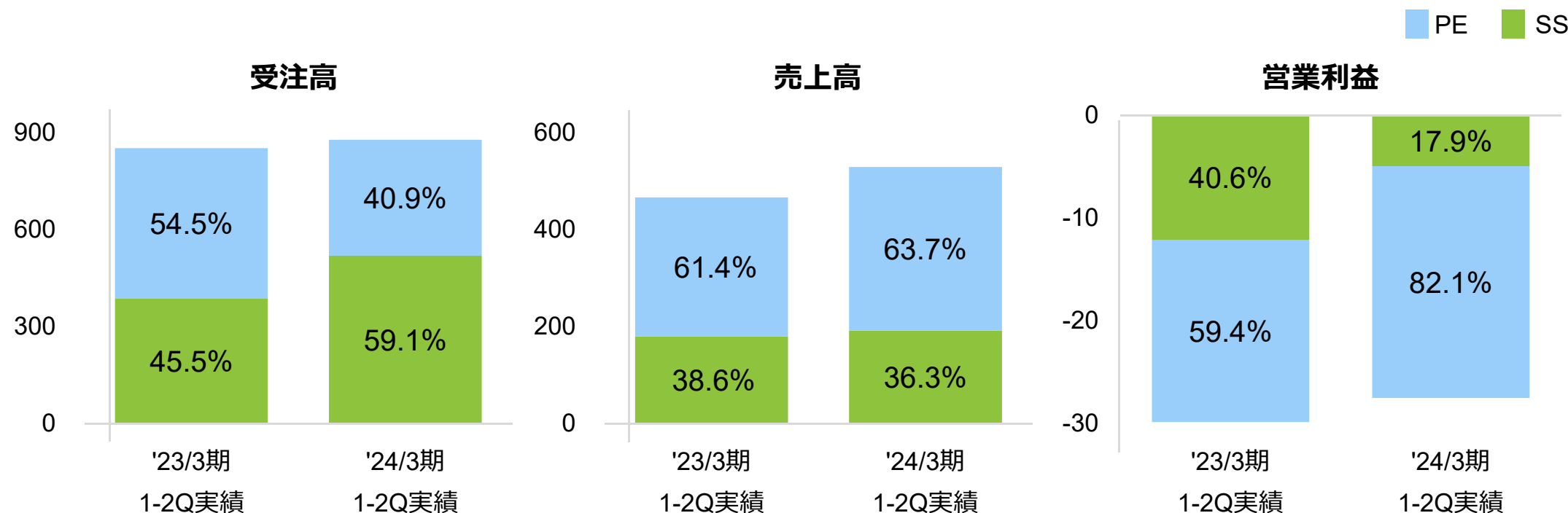
	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増 減
売 上 高	467	530	+63
営 業 利 益	-30	-28	+2
(営 業 利 益 率)	-6.4%	-5.2%	+1.2%
経 常 利 益	-19	-23	▲4
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	-16	-22	▲6

※10百万円単位を四捨五入（以降の実績値も同様）

セグメント別概況 (連結)

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	465	359	▲106	287	338	+51	-18	-23	▲5
サービスソリューション事業	388	520	+132	180	192	+12	-12	-5	+7
合計	853	879	+26	467	530	+63	-30	-28	+2



セグメント別概況 (連結)

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増減
プラントエンジニアリング事業	465	359	▲106	287	338	+51	-18	-23	▲5
サービスソリューション事業	388	520	+132	180	192	+12	-12	-5	+7
合計	853	879	+26	467	530	+63	-30	-28	+2

プラントエンジニアリング事業

【受注高・受注残高】

受注高は、海外事業が堅調に推移するもEPC事業が前期を下回り、全体として前期を下回った。
受注残高：'23/3期2Q末1,308億円 ⇒ '24/3期2Q末 1,231億円

【売上高・営業利益】

売上高は前期を上回ったが、営業利益は前期を下回った。
・EPC事業、海外事業共に売上高が好調に推移し前期を上回ったが、営業利益は共に前期を下回った。

サービスソリューション事業

【受注高・受注残高】

受注高はO&M事業およびPPP事業共に前期を上回った。
受注残高：'23/3期2Q末 938億円 ⇒ '24/3期2Q末 1,405億円

【売上高・営業利益】

売上高、営業利益共に前期を上回った。
・O&M事業、PPP事業共に好調に推移し、売上高および営業利益共に前期を上回った。

連結貸借対照表



(億円)

	'23/3期 期末実績	'24/3期 2Q末実績	増 減
現金・預金	117	213	+96
売上債権・契約資産	872	533	▲339
仕掛品・貯蔵品	99	189	+89
その他	38	51	+13
流動資産計	1,126	986	▲141
有形固定資産	52	55	+3
無形固定資産	125	159	+34
繰延税金資産	27	26	▲2
その他	96	90	▲6
固定資産計	301	330	+30
総資産計	1,427	1,316	▲111

	'23/3期 期末実績	'24/3期 2Q末実績	増 減
買掛債務	356	156	▲200
短期借入金 ^{*1} ₍₉₎	33	₍₇₎ 10	▲22
契約負債	71	188	+116
その他	132	106	▲26
流動負債計	592	459	▲133
長期借入金 ^{*2} ₍₁₁₁₎	111	₍₁₃₁₎ 131	+20
その他	57	58	+1
固定負債計	168	189	+21
負債計	761	649	▲112
純資産計	666	667	+1
負債・純資産合計	1,427	1,316	▲111

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(億円)

	'23/3期 1-2Q実績	'24/3期 1-2Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	206	111	▲95
営業キャッシュ・フロー	103	128	+25
投資キャッシュ・フロー	-14	-30	▲17
フリー・キャッシュ・フロー	90	98	+8
財務キャッシュ・フロー	17	-5	▲21
現金・現金同等物に係る 換算差額等	6	3	▲3
現金・現金同等物の期末残高	319	207	▲112

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見直しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートコミュニケーション部

Tel : 03-6853-7317 Fax : 03-6853-8709 E-mail : pr@metawater.co.jp